

強情を以て今年を終るなり

藤田湘子

昭和五十九年十二月二十一日作。毎日必ず一日十句以上を作句し、その総てを「鷹」誌上に発表することを課した多作法「一日十句」の二年目継続中。「強情」を広辞苑で引くと「意地をはり通すこと。頑固で自分の考えをかえないこと。意地つぱり」とある。負のイメージが強いが、どんな年だっただろう。

この年は、鷹二十周年の記念大会を帝国ホテルで開催。句集『一個』の上梓。編集長が大庭紫峰から小澤實に交代等、変化の年であった。湘子の「強情」は、「鷹」を發展させるための組織のリーダーとしての意思表示なのではあるまいか。男気と懐深い気配りと共存できるのは「強情」あつてのことであろう。

1984年 (S59.12.21作) 第六句集『去来の花』鑑賞・野本京